

会議録

会議の名称	第7回 清須市総合計画審議会
開催日時	平成28年11月10日(木) 午前9時30分～午前11時
開催場所	市役所本庁舎3階大会議室
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 清須市第2次総合計画(案)について (2) 清須市第2次総合計画の策定に関する答申(案)について 3 答申 4 清須市第2次総合計画の推進に向けて 5 市長あいさつ 6 閉会
会議資料	会議次第、委員名簿、配席図 [会議資料] 資料1 清須市第2次総合計画の策定のながれ 資料2 第6回総合計画審議会における主な意見等 資料3 清須市第2次総合計画(案)に係るパブリック・コメントの実施結果 資料4 第6回総合計画審議会での意見等を踏まえた主な修正点 資料5 清須市第2次総合計画 序論(案) 資料6 清須市第2次総合計画 基本構想(案) 資料7 清須市第2次総合計画 基本計画(案) 資料8 清須市第2次総合計画の策定に関する答申(案)
公開・非公開の別 (非公開の場合はその理由)	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	福田委員、浅井委員、伊東委員、小川(禎)委員、加藤委員、堀尾委員、富田委員、渡辺委員、野田委員(会長)、水谷委員(副会長)、天野委員、小川(興)委員、齋藤委員、福西委員、前田委員、山田(康)委員、堀田(俊)委員
欠席委員	堀田(忠)委員、高村委員、山田(功)委員
出席者(市)	加藤市長、齋藤教育長、葛谷企画部長、大橋総務部長、林健康福祉部長、宮崎建設部長、河村会計管理者、木村議会事務局長、寺井教育部長、間下監査委員事務局長

事務局	〔企画部企画政策課〕 河口課長、忠内副主幹、藏城副主幹、石附主査
会議録署名委員	齋藤委員、福西委員
<p>1 開会 (事務局)</p> <p>それでは、ただいまから第7回清須市総合計画審議会を開催いたします。 皆様には大変お忙しい中、ご出席賜りまして、ありがとうございます。 初めに事務局から、委員の皆様の出欠状況を報告させていただきます。 堀田忠彦委員、高村委員、山田功委員におかれましては、所用のため欠席ということでご連絡を受けておりますので、よろしくお願ひします。 本日は最後の審議会となりますので、審議の終了後、加藤市長よりお礼の言葉を申し上げます。 それでは、議事の進行を野田会長にお願いいたします。</p> <p>2 議事(1) 清須市第2次総合計画(案)について (野田会長)</p> <p>皆様おはようございます。 本日は最終の審議会になります。本日の最終の審議の後、答申を行うこととなります。 まず最初に、資料1を確認させていただきたいと思ひます。これは、前回から変わって、右側の上の第7回の審議会というところが塗りつぶされているということで、本日は最後の審議会であるということです。第1回が去年の9月29日ですから、もう1年以上、皆様に貴重な意見を色々いただひて、ようやくここまで来たと思ひております。本日皆様のご了解を得た後、きちんと答申してまいりたいと思ひます。 それでは、前回の審議会における主な意見と、パブリック・コメントの実施結果、また、それらを踏まえた第2次総合計画の修正案につきまして、事務局から一括してご説明をお願い申し上げます。</p> <p>(事務局)</p> <p>資料2 第6回総合計画審議会における主な意見等 資料3 清須市第2次総合計画(案)に係るパブリック・コメントの実施結果 資料4 第6回総合計画審議会での意見等を踏まえた主な修正点 資料5 清須市第2次総合計画 序論(案) 資料6 清須市第2次総合計画 基本構想(案) 資料7 清須市第2次総合計画 基本計画(案) について説明。</p>	

(野田会長)

ありがとうございました。前半の資料2から資料4につきましては、資料5以降の資料の修正に関わるポイントですね。ですから、今回お示しいただいています資料5、資料6、資料7の3点が最終的な計画書ということで、来年の3月末あたりに印刷されることになるわけですが、資料5から資料7までについて、皆様の意見をお伺いして、ご了解をいただければ、これを総合計画(案)としまして、後ほど加藤市長へ答申を行うこととなります。

基本的には、これまで色々ご意見いただきましたので、それをきちんと修正していると考えてはおりますけれども、もしここで修正が必要ということになった場合には、本日は答申を行う予定ですので、一旦私の方で会長預かりという形にさせていただいて、事務局と相談した上で、修正できるものがあれば修正をしまして、その後、皆様に後日お知らせするという形にしたいと思っております。

そうしましたら、皆様どうでしょうか。資料5から資料7についてですが、皆様のご意見、もしくは修正というよりは質問ということでも結構でございますが、何かございましたらお伺いしたいと思います。

いかがでしょうか。小川興児委員、お願いします。

(小川(興)委員)

小川でございます。会長さんに質問でございますが、公園ですね。たくさんの公園が、1号から何号まで、大中小の公園が市内に点在していると思うのですね。それが、ここには公園というような括り方では紹介されていない。ですので、その活用ですとか、それから子育ての中で皆様が幼児を大きい公園、小さい公園に連れて行かれる、そういうことについて、ここでは触れていなかったような気がするのですが。

これで中に入れた方が良いとか、そういう話ではなくて、ただそういう公園の話が出ていないという程度の話です。

(野田会長)

ありがとうございます。全く触れていないわけではないかと思いますが、事務局の方、いかがでしょうか。

(事務局)

公園のお話でよろしかったでしょうか。公園につきましては、施策404「水辺空間と緑地の充実」でございます。

(野田会長)

基本計画の83ページですね。確かにこの審議会の中で、公園というものをクロー

ズアップして議論していくという過程はなかったと思います。ただ一方で、公園・緑地の整備に関わる話については 83 ページに施策として設定されておりまして、それを今後、実施計画に基づいてきちんと実施していただくという形にはなっております。小川興児委員からいただいたお話は、整備する公園のことにしながら、例えば子育て支援であるとか、あるいはスポーツであるとか、色々な市民の活動を支える基盤にしていくという話でございます。

私の理解としましては、これは計画そのものを修正するというよりは、これからの施策の中で、そういったソフトの部分も含めて、きっちりと検討していただきたいという、そういうご意見のように感じましたけれども、小川興児委員、どうでしょうか。

(小川(興)委員)

結構です。どうかな、という程度の話ですので、修正する必要があるという話ではございません。

(野田会長)

ありがとうございます。それでは、計画書はそのままにしまして、これからの施策の中で、きっちりと整備されていく公園等を市民の活動基盤として、市民の生活や文化、誇りを支えていけるような形にしていただければと思います。

他にいかがでしょうか。福田委員、お願いします。

(福田委員)

資料7の 59 ページですが、施策の展開の8番「学校給食の充実」ですが、確認ですけれども、児童・生徒が安全・安心でおいしい給食を食べられるようにということなのですが、この中には食物アレルギーに対する方策とか、そういうことも入って、こういう言葉になっているのだらうと思いますが、確認ですが、よろしく願いいたします。

(野田会長)

ありがとうございます。こちらも施策そのものの文言を修正ということではなく、中身の確認ですね。食物アレルギー等への配慮も含めて、ここでは「美味しい給食」あるいは「適切な衛生管理」という言葉の中に入っているという理解ですけれども、事務局、いかがでしょうか。

(事務局)

本市におきましては、新しい学校給食センターの運営を始めておりまして、その中でアレルギーへの対応はしているところでございまして、そこも含めて、このような

記載をさせていただいているところでございます。

(野田会長)

ありがとうございました。福田委員、よろしいでしょうか。

(福田委員)

はい。ありがとうございます。確認をさせていただきました。

(野田会長)

結構でございます。そういう形で、せっかく最後の審議会でありますので、是非皆様にお願ひできればと思います。

他にどうでしょうか。この際、質問ということでも結構でございます。よろしいでしょうか。

それでは、よろしければ、この第2次総合計画（案）の内容をもちまして、当審議会としてとりまとめることとしたいと思いますが、皆様よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

(野田会長)

ありがとうございました。それでは、この内容で委員の皆様のご了承を得たものしたいと思います。

2 議事(2) 清須市第2次総合計画の策定に関する答申（案）について

(野田会長)

そうしましたら、次にお手元の資料8をご覧ください。

資料8は、この後、加藤市長に答申を行う時に読み上げる文章でございます。この文章は、前半は皆様の審議を基にきちんと検討しましたということを書いております。後半に清須市の新しい理念となります「魅力」、「連携」、これについては、それぞれ清須市の特色を生かして、真に魅力あるまちづくりを進めること、それから、市民とのつながりを大切にした市政運営に努められること、これを申し添えたいと考えております。

こういった文面で答申したいと思いますけれども、皆様いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

ありがとうございます。それでは、これで加藤市長に答申書をお渡しすることにし

たいと思います。

3 答申

(事務局)

それでは、ただいまご同意をいただきました答申書につきまして、野田会長から加藤市長へお渡ししていただきたいと思いますので、前の方によりしくお願いします。

(野田会長)

清須市第2次総合計画の策定について答申します。

平成27年9月27日付けで諮問のありました、清須市の総合的かつ計画的な行政運営を図るための総合計画の策定について、行政運営の基本的な指針として、長期的な視点に立ち、本市の将来に向けての発展すべき方向と目標を定める観点から、当審議会において慎重に調査・審議を重ねた結果、別添のとおりとりまとめましたので答申します。

なお、本答申とあわせて、清須市の新たな基本理念として定める「魅力」及び「連携」のもとに、名古屋大都市圏に位置する恵まれた立地と歴史的資源を活かして、真に「魅力」あるまちづくりを進めるとともに、計画の策定過程において実施した「市民参画会議」や「市民満足度調査」等における市民の意見等を十分参考にするなど、市民とのつながりを大切にした市政運営に努められるよう希望します。

(答申書手交) (拍手)

(事務局)

ありがとうございました。野田会長、加藤市長、席にお戻りください。

一旦ここで休憩をとりたいと思っておりましたが、引き続いて次の進行の方をお願いしたいと思います。

4 清須市第2次総合計画の推進に向けて

(野田会長)

本日は、色々どうもありがとうございます。先ほど皆様のおかげで答申を終えまして、本日をもって当審議会は終了することになりますが、せっかくの機会ですので、最後にこれまでの審議を通じての皆様のご意見、ご感想、これから第2次総合計画に基づいた行政運営を進めるに当たってのご要望など、どういった観点からでも結構でございますので、各委員お一人ずつお言葉を頂戴したいと考えております。時間はしっかりございますので、お一人2～3分程度でお伺いできればと考えております。せっかくの機会ですので、計画書は皆様のご意見で出来上がりましたし、これをこれから実施計画に落とし込んで、実際に実行していくという段階になりますので、そうい

ったことも見据えてご意見をいただければと思います。

そうしましたら、名簿順に福田委員から始めていきまして、渡辺玲子委員、戻って天野委員から続けていただいて、最後に堀田俊雅委員、それから副会長、最後に私からという形にさせていただければと思います。

それでは福田委員、よろしく申し上げます。

(福田委員)

失礼いたします。本当にこのような重要な審議会に参画する機会をいただきまして、本当に毎回、身の引き締まる思いをしながら、色々勉強させていただき、感謝しております。ありがとうございます。

それから、本当に毎回、緻密で膨大な資料をご用意くださった企画政策課の皆様にも、本当にお礼を申し上げたいと思います。

私、自分の分野では色々勉強させていただいたこともありますが、こういう市の行政全体を見渡してという、こういう機会は、本当に今回すばらしい経験をさせていただいたと思って喜んでおります。

最後に、これからのお願いと言いますか、思っていることなのですけれども、最近よく「市民ファースト」と言われるのですけれども、市民にも本当に色々な方がございまして、よく声の大きい方とか、それから数の多い方に目を向けがち、耳を傾けがちになるのですけれども、今回これだけ皆様で知恵を出し合い、時間と労力をかけて策定していただいた基本計画ですので、今後は今まで以上に課と課の横のつながりを大切にしながら、住み良いまちづくりのために、中には声を上げない市民もみえるかと思うのですけれども、そういう方も視角に入れていただいて、「市民ファースト」でお仕事をしていただけるものと期待しております。よろしくお願いいたします。

私、色々な方、色々な年代の方とお話をさせていただく機会があるのですけれども、行政批判をされる方は本当に昔の頭で、縦割り行政なのでいかんとか、それから職員も2～3年で異動するので、面倒なことは真剣に取り組まずに後回しにするとか、そういうことをおっしゃる方がみえますのをよく耳にするのですけれども、でも、そういう時に私は、今は昔と違って、試験を受けて市の職員になっていらっしゃるのだから、そういう方が採用されてみえるので、優秀な方も多し、熱心にお仕事をしていらっしゃるから、そういう方ばかりではないですよというようなこともお話をしています。

それからまた先日も、配布されたばかりの広報紙がゴミに出っていたので、びっくりしました。情報の取り方一つでも様々です。若い方で、IT機器の情報入手が得意な方は広報紙はいらないよとおっしゃいますし、私たちみたいに高齢の者は、詳しくはホームページでと言われても、できる人とできない人があるかと思っています。そういう方のために広報紙が紙で配布されると思うのですが、そういう方はそれを読むのも面

倒だというようなことで、特に年末年始のゴミ出しとか、そういうことは回覧板で回してもらえばちゃんとやるから良いわみたいな、そういう考えの方もいらっしゃると思いますので、本当に市民と言っても色々な方がいらっしゃるの、そういう方もみえるのだなということを色々お考えいただいて、これからの行政の活動をしていっていただけたらなと思います。

もう十分にお分かりいただいていると思うのですが、せっかくの機会をいただきましたので、本当にそういう生の声もあるのだよということを、ここでちょっとご披露させていただきました。失礼いたしました。

(野田会長)

ありがとうございます。浅井委員、お願いします。

(浅井委員)

1年間本当にありがとうございました。色々勉強させていただきました。これだけのものを作って、100点近い点数を取ろうと思うと、職員の方も本当にご苦労様だと思います。100点とは言わなくても、70点から80点ぐらいのところまでは本当にやっていただいたと思います。100点ということは希望であって、100点を取ったら、後々、一般市民の方も何でもやってくれるということになります。努力もなしで、行政だけにやらせれば良いというのが一番いかんことだと思います。自分、本人も努力した、それによって行政も動いてもらうようにしてもらおうと一番良いのですが、これがなかなか、市民団体も若手と年寄りで、実情は上のほうは年寄りがいて、下の肝心のところはみんな実績がないということで、本当に困ったような状態でやっているわけですけども、長く続けてやってもらって、跡取りをずっと作ってもらっていくのが一番良いと思っています。

この中で市長さんにちょっとお願いしておきたいのは、朝日貝塚に資料館を作ってもらって、朝日貝塚と清洲城をあわせて観光するというのをやってもらいたいと思います。清須はお城があるといっても、お城は駐車場も大きくないし、お城1つでは1時間か2時間で終わってしまう。せめて4～5時間、半日ぐらい、清須に滞在できる観光施設を作ってもらいたいと思っています。朝日貝塚の資料が弥富の県の資料館の中にほったらかしで、山積みしてあると少し前に聞いたのですが、こんなに良いものがあるのに、何でやらないのか。私も議員さんにも言うのですが、皆様声を大きくして、県に朝日貝塚の資料館を早く作るように、各団体の会長さんもおみえになるので、一つ県に啓蒙するようにお願いしてもらいたいと思います。

本当に1年間、どうもありがとうございました。

(野田会長)

ありがとうございます。伊東委員、お願いします。

(伊東委員)

伊東です。自分がこの会でお役に立ったという印象があまりなくて、いつも終わった後、僕が委員で大丈夫なのかなということはずっと思っていて、今回終わりに当たって、この1年間、自分が市に対して何かできたのかなという、そういう点ですごく申し訳ないなという思いがございます。

今回お話ししたいのは、今後、実施するに当たって、市の皆様、市長さんを始め市の職員の方に、ちょっと意識してもらいたいなということをお話したいと思います。

私の年代の知人とか友人と、年が年だけに、政治とか何かという話がだんだん出る年齢になりまして、皆意識しているのが、サラリーマンの、僕のような年代の多くの男性の方が思っているのは、財政のことについてすごく不安に思っていて、例えば今の国と地方の借金ですね。1人当たり、あまり正確な数字ではないですけども700万円とか800万円というような状況。例えば、うちの家族が何人いたら、例えば5人いたら4,000万円借金しているという意識が強くて、皆様普通国民というのは、多分何かしてくれよという立場でして、お金を管理しているところが「いや、それは無理だから」と抑えるほうに回るのですけれども、今の状況を見ていますと雰囲気の違いまして、一般の普通の人たちが「国大丈夫なの?」「地方大丈夫なの?」という意識をすごく持っている様に思っていて、今のこの資料の中で、市の市債のところで1人当たり25万円くらいの借金があるという書き方をされていて、それが他市町村と比べて特別多いわけではないという言い方をされているのですけれども、横並びで物事を考えるのではなく、やはり赤字はだめだろうというのが、私や友人達の一般的な意見です。

最近、テレビですごく衝撃的というか、すばらしいなと思ったことがあったのは、国民皆保険ということで、がん治療の関係でオプジーボだったか、年間で使うと1,000万円ぐらいかかる、保険が適用できるがん治療薬の話で、あるお医者さんがその薬を国民保険で適用するのはいかななものかと。多分、今後どんどん増えるので、本来の国民皆保険が破綻するのではないかと。この言葉は非常に言いにくい言葉であって、人の命、私も前にお話しましたが、安全・安心というのはお金に代えられないというのが基本的なスタンスではあるのですけれども、命に関わるところでそういう発言をされて、お金持ちしか適用できないような可能性もあるというお話をされて、それを一医師の立場で、皆保険そのものが破綻したら皆が困るんだよと。だから、命はお金に代えられないということがあっても、それで医療というのはいかなものかということで、その時にテレビでイギリスの例を取り上げていて、イギリスの健康保険に関しても、最近では費用対効果を非常に考えられるようになって、テレビに出られた方は、費用対効果でがん保険が適用できないものですから、貧しいためがん治療薬に自分でお金を出すことができないので、自分の命がこのまま縮まっていくということで、悪い例ではあったのですけれども、世の中は多分そういう方向に向かっているの

かなということ、これから市の財政、施策を進める中で、やはり費用対効果ということをご意識していただきたいなと思います。市民の方は、先ほど言いましたように、みんなやってくれの方は言います。でも、これを減らせとか、他人事なのでやめろとは言いません。例えば、東京オリンピックなんかを見て、東京オリンピックをやるといったら賛成という人はいるのですね。なかなか反対とは言えない。何故かという、賛成という人は、オリンピックを開くと直接的に儲かる方がたくさんいます。その他多くの一般市民、今回は都税が使われるので都民ですね、都民の方は直接的には利益がない。小さな費用なので、大きな声で反対とはなかなか言えない雰囲気だと僕は思っています、実際本当はそういう、直接的に利益を得ない人たちが「やっぱりやったほうが良いね、都のためにも、国のためにも」という様な意識であるならばやったら良いのですけれども、そうではない場合、強い意見に流されるのはいかがなものかと思います。特に私がショックを受けたのは、森元総理の国立競技場の話で、経費が予算に対して大幅に増えた時に、この程度のお金が何で払えないのかという言葉がすごく印象に残りまして、一般市民の感覚と、そういう大きなお金を扱っている人というのは、ずれてしまうのではないかと。

長くてすみません。基本的に言いたいことは、税金なので皆で大事に使おうよと。その時に、皆に良い顔をしてば撒くというのは、決して良いことではなくて、それが基本的には皆に負担をかけて、大事な時にお金が使えなくなるのではないかと考えていたので、これはあくまでも中身の話ではなくて、今後、この答申に沿って市が運営される時に、先ほどの話の様に、命に関しても費用対効果が入る時代が来たらろうということで、投資した、費用をかけたものに対して、効果があるのかどうかということを十分把握していただいて、是非少しでも効率的な税金の使い方をしていただきたい。結論はそこだけです。

長くなりましてすみません。以上です。

(野田会長)

ありがとうございました。続いて小川禎一委員、お願いします。

(小川(禎)委員)

失礼します。まずは私、これまでのこうした総合計画、第1次の時から見させていただきまして、素晴らしいものが出来たなという感想でございます。これには、会長さんの素晴らしいお知恵、それから企画政策課の皆様の努力だと思っています。

先ほどの答申の中にも、清須市の基本理念、「魅力」と「連携」という言葉がございました。「連携」という言葉は、行政の中の連携とともに、市民の連携であると思います。この立派な総合計画が市民にいかにか浸透していくのか、どのような形でこれが印刷されて、各家庭に配布されるのか。あるいは広報紙にその都度載せていられるのか。色々と呼びかけをしていただけることによって、安心できる、元気な清須市に

なっていくのではないか、この様に思っております。

本当に1年間、このおかげで寿命がここまで持ちました。ありがとうございました。

(野田会長)

ありがとうございました。加藤委員、お願いします。

(加藤委員)

毎回膨大な資料を作ってくださいました市の関係者の皆様、どうもご苦労様でございました。会長さんにも色々お世話になりました。ありがとうございました。

この会議に参加させていただきまして、今まで関心がなかった、雲の上の存在だと思っていましたけれども、本当に良い勉強をさせていただいたと思っております。

今後の市の方へのお願いでございますけれども、答申書にも書かれている、あるいは市民からの意見の中にも色々書かれております、つながりと言いますか、連携、協働、これを大事にしていただきたい。行政と市民との間、あるいは行政の間、各課の間の連携をうまくやっていただければ、先ほど言われている財政の方も、少しは良くなっていくのではないか。小さな費用で大きな効果を上げる。そういうことに努めていただきたいと思っております。どうもありがとうございました。

(野田会長)

ありがとうございました。続いて堀尾委員、お願いします。

(堀尾委員)

堀尾でございます。私も初めてこのような会議に参加させていただきまして、本当にすごく勉強になりました。色々市には参加しているつもりではおりますが、このような莫大な勉強をさせていただいたことには、本当に感謝しております。

なかなか意見も言えなくて本当に申し訳ないですけれども、すぐに出てきませんので、本当に申し訳なかったと思っておりますが、この7回の会議に参加させていただきまして、本当にありがとうございます。

また、色々なものに対して、私も参加したいと思っております。色々な行事にも顔を出させていただけたいと思っております。

市民とのつながりを大事にさせていただいて、市の方たちにもお礼を申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

(野田会長)

ありがとうございました。富田委員、お願いします。

(富田委員)

今年の4月に清須市寿会連合会の会長を仰せつかって、前会長の渡辺会長から引き継いでここへ参加させていただいているのですけれども、何をやる会議なのか、あまり分からない状態で参加させていただいております。

このことではなく、私から見た清須市の感想を少し述べたいと思います。

合併して清須市になる前は「どこに住んでいるのですか？」と言われて、「新川に住んでいます」と言うと、ほとんど名前の知られていない町だったのですけれども、今は九州へ行こうが、四国へ行こうが「清須市に住んでいます」、「愛知県の清須市に住んでいます」と言うと、大抵の方が分かってくれます。ほとんど全国区という感じで地名が知られているわけですが、ここの市に何があるかという、全然思い浮かばない状態です。魅力のあるまちなのだろうか、市なのだろうかという、そういった面に関しては、ほとんどの方がどういうまちなのかわからないわけですね。ただ「織田信長の清須」ということで有名であって、知られているわけですが、今度リニアが名古屋に入ってきます。こういったことを踏まえて、せっかく清洲城がある以上、これを全面的に打ち出して、大きなイベントというのか、そこを拠点に、例えば清洲城、その周辺にある公共施設、それと朝日貝塚。道路網、施設を改修して、大きな「道の駅」などを作って、清須をもっとアピールできないかという感じがいたします。食べ物に関しても、清須独特の物が無い。農産物でもそうですね。皆様にアピールするものがない。もっと魅力のあるまちづくりを目指していただきたいという感じを持っております。以上です。

(野田会長)

ありがとうございました。渡辺委員、お願いします。

(渡辺委員)

前回の意見で、追加の方、特別支援教育の方も入れたらどうかということで、早速取り上げていただきまして、本当にありがとうございました。これから未来ある子どもたちに本当に力を入れていただきたいな、というのが私の気持ちです。

障害の有無に関わらず、本当に普通の暮らしができれば良いなというのが本当の気持ちです。段々と平等に年は取っていくので、親も子どもも、子だけが年を取っていくわけではなくて、親も一緒に取っていくので、本当にこの先どうしたらいいのかということ、あまり考えなくてもいいような暮らしというのでしょうか、この先はこうしていくのだという道筋を立てていけるような、この市に住んでいて良かったという都市になればいいかな、ということ、をすごく思います。

それから、子どもの方に関して言いますと、早期発見の方で力を入れていただきたいと思います。やはり発達障害の方たちは、早く取り組むとそれなりに成果があるみたいですので、それがなかなか、若いお母さんたちに取り入れていただける場合が少ない様で、他の市などの方たちがよく言われるのは、幼稚園の時にお子さんがちょっ

と離れているというのか、ちょっと浮いているというのか、そういうことがあっても、お母さんの方が「いや、普通です」と言って、なかなか認められないという話をよく聞いたりするのですね。小学校に行くと、小学校の先生が「幼稚園の時、保育園の時、何か言われませんでした？」と言うと、「いや、何も聞いてないです」ということが往々にしてあるみたいですので、その辺のところも、親の方にも理解をしていただき、早期発見をして、しかるべきところに紹介をしていただいて、早く対応をすることで大分効果があるようです。その辺のことも、この会議を通して、障害といっても精神の方もありますし、なかなか外に出られない方もいらっしゃいますので、そういう方たちが、社会参加をしていけるような社会になっていければ良いかなと思っております。

私の息子が東京の方に行っておりまして、清須市のことがすごく気になるらしくて、人口増加率は高い方だと言っておりましたが、そうなのという感じで、私の家の周りを見ますと、本当にたくさん家がどんどん建っていて、私がこちらへ来た頃とは本当に変わってきました。どこまで家が増えていくのかなということで、名古屋に近いからということもあるのでしょうかけれども、色々そんなことを感じながら、出ていった息子も、一応ふるさとのことを思っているのだなという、そういう力というのでしょうか、若い方たちがたくさん外に出ていかれても、やはり清須市のことを思っていてくれるというのが、すごく良いことかなと感じています。本当にありがとうございました。

(野田会長)

ありがとうございました。天野委員、お願いします。

(天野委員)

今回参加させていただきまして、特に感じましたのは、自分の理解力のなさというのをすごく嘆いていたのですけれども、それと、計画を作るに当たって、それぞれの都度、市民の意見を求めながら、とても丁寧に計画を作り上げられたということに対して、深く感銘をいたしました。

今回の趣旨とは全く逆なのですけれども、以前、お年寄りでもできることに是非参加して欲しいというようなお話がありましたけれども、市民の一人として、例えば、地域活動であるとか、社会貢献という形で参加していくことによって、全く逆ではありますが、間接的に市に対する満足度であったり、まちの誇りというものを感じられるようになるのではないかと考えております。ありがとうございました。

(野田会長)

ありがとうございます。小川興児委員、お願いします。

(小川(興)委員)

この1年間、本当に色々な勉強をさせていただきまして、ありがとうございました。また、職員の方々の叡知を集めた総合計画、野田会長、副会長をはじめ、色々とお世話になりまして、本当に立派なものが出来たと思っております。

この第2次総合計画に参加させていただきまして、本当に限られた予算、少ない予算の中で、市長を始め少ない職員で、多岐に渡る37の施策を実行されていくということで、改めて感謝いたしたいと思います。本当にありがとうございます。

また、この施策の実行に当たっては、担当部署のそれぞれが抱えている課題を克服して、目指す姿を確かめながら、達成度を高めることが必要だと思えます。

また、皆様が言われているとおりの「連携」でございます。福田委員が言われた、色々な住民がいるように、声の大きいもの、それから数の多いものを優先しちゃいかんとか、それはもっともな話でございます。声のない住民の意見をどの程度すくい上げていくのか、非常に大事なことだと思います。このような市民との連携が非常に重要で、市民と直に交流する機会を増やし、市民からの意見とか要望というものを、これは実施計画に反映させていきながら、現実的な行政運営がされていくことを願っております。色々ありがとうございました。以上です。

(野田会長)

ありがとうございました。齋藤委員、お願いします。

(齋藤委員)

第1次総合計画から第2次計画まで携わってきまして、一つ思うことは、時代の移り変わりが非常に目まぐるしいということです。清須市に関しても、田であったところに家が建ったり、本当に日々変わってきております。

関係しております防災の面から言いますと、高齢化、それから少子化ということで、消防団もしかり、高齢化しております。いざ災害だということ30%が出られるかどうかという今の現実の状態なのですけれども、色々これからのことを考えますと、清須市というのは、お互いに隣に誰が住んでいるのか分からない、近代的と言いますか、そのような状態ですので、昔に戻りまして隣組制度、隣がともに助け合う、災害に対しても必要なことかと思えます。

この基本計画を見ますと、防災の面に関してはまだまだだとは思いますが、年々魅力ある清須市になってきていると思えます。

これからも3つの大きな川、庄内川、新川、五条川、それとうまく付き合っていくようなまちづくりをしていただきたいと思います。また、防災の面からも、その3つの川を大切に守っていきたいと思いますので、この計画どおり、未来ある子どもたちのために、素晴らしいまちづくりに協力できたということは、本当に嬉しく思っております。これからもこの計画が推進されますように、お願いしたいと思います。

また、一つ市長さんにはお願いですけれども、消防団の本部というものをなるべく早く作っていただいて、現状、4つの町が1つになったわけですから、1つのまとまる場所を早く作っていただきたいと思います。1年間、この計画に携わらせていただきまして、本当にありがとうございました。

(野田会長)

ありがとうございました。福西委員、お願いします。

(福西委員)

このような会議に参加するという貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

参加する前は、今すぐにでも、大都市の東京に行きたいとずっと思っていました。しかし、この会議に参加させていただくに当たって、清須市について自分なりに、今まで以上に深く考え、調べ、そして市を良くしていこうとたくさんの方々が考えてくださっていることを知り、魅力的な市だなと痛感しました。

良くしていこうと口で言うのは簡単で、いざ実行していくのは並大抵のことではありませんが、今回の総合計画を実現していただきたいと思います。

ありがとうございました。

(野田会長)

ありがとうございました。前田委員、お願いします。

(前田委員)

一人ずつ発言をということでございまして、これまでずっと委員さん、素晴らしいご発言を賜りまして、ここでいざ自分が何を言おうかと思いつつ、今まで順番を待っておりまして。

そんな中で、今回の第2次総合計画の策定につきまして、会長さんから市長さんへ答申がされました。それを聞きまして、私も本当に安心をしたところでございます。

都市計画の中の総合計画、公共交通の面、このような発言は少なかったですけれども、参加できて大変良かったと思っております。そんな中で私、公共交通会議の会長という名目で参加しているわけでございますけれども、今回の第2次総合計画、色々計画がある中で、その一部ですけれども、公共交通、地域の交流の原点という意味合いから、存在感があるのだなということを十分感じました。そして、日頃は私も若い若いと思いつつも、次の免許の更新には、免許を更新するのか、これでやめるのかという、その分かれ目の年齢の時に、やはり「あしがるバス」は、自分が外へ出る時には、大変素晴らしい交通機関だと思っております。

そういった中で、公共性とか利便性、それにこの「あしがるバス」は大変事業費が

かかりますが、そのバランスを踏まえながら、今後、まちの活性化につながっていく「あしがるバス」ということで、公共交通という点では、清須市におきましては、やはり「あしがるバス」が公共交通の基盤であるということでございます。そうした中で、住民からの声を聞きますと、色々な要望がございますが、今後もそういった要望を一つでも多く市の方が取り入れていただいで、そして実行していただきたいと思っております。

今回の第2次総合計画の策定においても、会長さん、市長さん、そして皆様からの色々な意見、春日公民館では映像を使った意見交換会等がございました。そういった中で、皆様の要望ですとか、アンケート、これらを聞いて、これからの行政が事業に邁進していただけることができたかなということ、この場で痛感いたしました。

今回はこの審議会のメンバーに入れていただきまして、本当にありがとうございます。以上です。

(野田会長)

ありがとうございました。山田康博委員、お願いします。

(山田(康)委員)

山田でございます。総合計画に参加させていただきまして、ありがとうございます。会長、副会長には、審議の取り回しをしっかりといただきまして、ありがとうございます。

非常にしっかりしたものが出来上がって、胸が張れるという内容かと思えます。これで今後8年間の市の方向性というか、大きな矢印を作っていただきましたので、あとはこれをしっかりと、前へ進めていただくということが重要かと思えます。

また、ここに書かれていることは、今まで起きたこと、それから、ここで予想されていること、これからこうであろうこと、今この段階で考えたものを踏まえて計画を立てておりますが、今の時代、非常に変化が早い。先ほどから皆様がお話されているように、急に状況が変わっていく、周りの市町も変わる。それに対応して、どのようにこの市が進んでいくのか。隣町が変化したから、うちのまちもそっちに行かなきゃいけないのか、いやそうではなくて、このまちはこの立ち位置でしっかりやっていくのか。その辺りを、その都度考えながら、先へ進めていただければと思います。

その場合には、この基本構想にしっかり立ち戻っていただいで、これは多分皆様の総意、ずっと変わらないことだと思いますので、10年、20年先も、この考え方でずっと進んでいくことが、皆様間違いなく問題ない話だと思いますので、しっかり立ち戻っていただいで、前へ進めていただければと思います。

事務局の方も、多くの資料を本当にしっかり作っていただきまして、ありがとうございました。またご協力させていただきますので、よろしく願いいたします。

ありがとうございました。

(野田会長)

ありがとうございました。堀田俊雅委員、お願いします。

(堀田(俊)委員)

毎回審議会の中で、本当に膨大な資料を作って、分かりやすく説明をしていただき、私たちの意見を毎度毎度、修正・加筆してもらって、素晴らしい計画が出来たなど自分自身思っています。夜遅くまで、色々な部署の職員の方々がお仕事をされているのを見て、第1回から第7回までの会議を通して、私自身就職活動中だったのですけれども、行政職の道を志すようになりました。

先月、先々月と、春日中学校の教育実習に行ったのですけれども、その時に感じたのは、普段の生活の中でも、中学校の中でも、実際の立場というのが似ているなど思ったのは、少数派の意見がなかなか通らない、通りにくい世の中になっているということです。「沈黙の螺旋状態」ということをすごく感じましたので、この清須市の場合でしたら、僕も去年参加したのですけれども、市民参画会議とか、市民が職員の方々とたくさん交流して、その中から拾ってもらった意見というのは、自分自身、施策の中にも反映されているなどすごく実感することができました。

ですので、この第2次総合計画の矢印を基に、今後も積極的に市民と交流を深めていただいて、また新しい計画がありましたら、どんどん取り入れていって欲しいと思います。ありがとうございました。

(野田会長)

ありがとうございました。水谷副会長、お願いします。

(水谷副会長)

かれこれ20年前になるのですけれども、市民参加型の政策立案、計画策定ということ海外でしているということを経験した時に聞きまして、こういう仕事に就きたいなど思ったのです。その時を思い返すと、本日こういった審議会の副会長として参画させていただいて、こんなに素晴らしいものを皆様に力を合わせて作られたということで、そこに関わらせていただいたということで、非常に感慨深いものがございます。どうもありがとうございます。

市民参加、社会的な合意形成という立場のことを担当ということで関わらせていただいておりますけれども、この審議会では目一杯新しいことを取り入れて、私もかなり難しいことを、こうしたらどうですかと提案させていただいたのですが、それを事務局の皆様、一生懸命取り入れて、とても難しく大変なことだったと思うのですけれども、また、前例がないことですので、手探りの中、色々な多方面の調整をしながら

ら進めてこられたということで、本当にありがとうございます。本当に拍手を心からしたいと思っております。

委員の皆様も、そして市民参画会議に参画された皆様も、また、アンケートに答えてくださった方、それから、説明会などに来られた方、パブリック・コメントで意見をくださった方、そういった方々のお知恵、また意思が入っているのかな、詰まっているものなのだなということを、今ひとりと噛みしめております。

これから、これを実施していく時に、大きな課題ということをお客様からも言われておりますけれども、私もやはり、市民との連携というのはとても重要だと思います。それを進めていくには、市の中、行政内の連携、これはとても難しいのではないかと思います、是非ここは乗り越えていただきたいと期待をしております。

また、実施をしたら、自己評価をするということで、その評価の仕組みまでここに取り入れられているのは、非常に素晴らしいと思うのですが、是非点数にとどまらず、何が良かったのか、何を改善していくのか、伸ばすところはしっかり評価して、また悪いところは改善してという、その質的な改善を是非していただくと良いのかなと思っております。

また、各施策単位ではなくて、各事業単位ではなくて、その事業が全体の中でどういう位置付けにあるのか、そういった評価までできると更に素晴らしいのではないかと思います。

あと一つ、課題というのは、ここではあまり審議はしなかったのですが、この総合計画というのは、8年ないし10年くらいの大きなスパンだと思っております。自治体の中で一番長い計画になると思うのですが、実はTPPとか気候変動というのは、もっと何十年も先の話につながってくるものです。今からできることは何なのかという、10年以上の超長期の市政というか、まちのあり方を考えた上での計画というのは、まだこの中に盛り込むのは難しいと思いますが、そういう視点もあるということをお頭の片隅に置いておくといいのかなと思っております。

とにかく、ものすごく大変なことを、皆で力を合わせて作り上げたということで、とても素晴らしいと思っております。こういった舵取りを、難しい舵取りだったと思うのですが、的確にご指導いただき、また、皆様の意見を聞きながら議論を深め、更に計画に反映してくださった野田会長に、心から感謝を申し上げたいと思っております。

以上です。ありがとうございました。

(野田会長)

皆様どうもありがとうございました。皆様から一言ずつご意見をいただきましたので、それを来年度から、第2次総合計画に基づいた行政運営の中で、しっかりと反映していただければと思います。

最後に私から、話を少しだけさせていただきたいと思っておりますけれども、かなりつたない進行で、自分自身まずいなということが何度もあったのですが、皆様のご

協力、それから副会長のご支援があって、それからまた事務局のしっかりしたベースになる資料があって、ここまでやって来られたと思います。本当にありがとうございました。

本日皆様のお一人ずつのお話を聞いて、やはりそうだったかと確信したことがあります。もともとこの仕事というか、会長職の依頼を受けて、清須市さんは外から見ても、他の地域に比べて、非常に財政的にもまだ大丈夫な面もありますし、一方で名古屋大都市圏の中で、非常に立地環境も良い。ものすごくやりやすい地域だなということがありました。しかも、駅もいくつかあって、人口も一定数維持できているということでございます。

そういったところの計画なのですけれども、条件が非常に良い地域ですので、できれば自治をきっちりとやっていくことが重要なのではないかと思います。自ら治めていくということですね。

皆様のご意見を、7回の審議会の中、それから市民説明会、市民の方が手を挙げて意見を伺う中で確信したことは、私、今回のこの審議会だけではなく、色々な審議会で色々な役回りをさせていただいてきたのですけれども、特に思ったのは良識のある市民だなと、心の底から思いました。今回、ご意見を伺ってもすごく思いました。通常はもっと対決姿勢になったりですとか、あるいは行政側も、何とか抑えて意見が出ないような形で進めていくということもよくあるのですね。でも毎回きっちりと意見を出す形の場合になっていましたし、皆様も意見を言っていたというのがあります。真剣に議論をしていただいたというのは、皆様の良識がその前提にあったのだと思います。施設も揃っていますし、条件も良い地域なのですが、市民のそういった良識があってこそ自治になるのだなと、すごく思いました。今、お一人ずつの皆様の意見を伺っても、そういう認識が間違いなかったなと、深く理解したところでございます。

もう1つあったのは、市民説明会の時、私が説明をする時に、前列の方に皆様の顔が見えたのですね。その時に、普段の市民の方とは違う、要は市側というか、皆様が市を持っている、市の所有者である、オーナーシップ、オーナーであるという感覚がすごく分かりました。まさに自治というのは、市民がオーナーでないにだめだなということがすごくよく分かりました。ですので、行政との対決姿勢というよりは、市を自分たちが持っている、自分たちのことなのだから、自分たちで良くしていく。市役所の職員の方々を批判するというのは、まさに自分たちの手足を批判していることになるわけですから、そういったことを皆様がすでに持っているなということを感じておりました。

更に、本日の皆様のお話の中にもありましたけれども、「連携」という話ですね。つい先日、私の博士論文の指導をしていただいた、資格論文の時の副査の先生が亡くなられてまして、もともと知多出身の方で、その後、四日市大学に行って、その後、熊本県立大学で、もう1回四日市に戻って、同志社大学に行っていた今川晃先生ですけ

れども、今川晃先生がずっと言っていたことが、結局、自治とか分権、あるいは協働を進めるとは言っても、市民同士の水平的な連携がない限りは、絶対に進められないということを書いていました。絶えず市民間の水平的連携というものを目指さないとだめだ、ということを書かれていました。

本日お話を伺って、皆様の良識と、それから連携しようという、そういう意識ですね、そういったものが清須市さんにはありますので、まさに自治のモデルになるのではないかと思います。

私も今川先生の水平的連携ということ、これから重要な課題にしていきたいと思えますし、今回の清須市さんの皆様の良識というものを深く感じ取って、他の地域にしっかりと紹介しながら、自分自身も勉強していきたいと思えます。

1年少々、皆様どうもありがとうございました。

それでは、これで総合計画審議会を終了したいと思いますので、マイクを事務局にお返ししたいと思います。よろしくお願いします。

(事務局)

どうもありがとうございました。

それでは、ここで加藤市長からお礼のごあいさつをさせていただきます。

5 市長あいさつ

(加藤市長)

皆様、改めましてこんにちは。

本日は、本当に早い時間から、この審議会を開催していただきました。そして、ただいま答申をまとめていただきました。誠にありがとうございます。委員の皆様方にはご尽力、そして熱意ある議論をしていただきまして、まとめていただきました。大変ありがとうございます。

昨年の9月に第1回の審議会行っていただいてから、本日で7回目ということで、この間、合併から10年が経過する中で、将来的な人口減少ですとか、先ほども話に出ておりましたリニア中央新幹線の開業など、長期的な視点に立って、新たな課題の認識の下に、本市の将来のまちづくりの方向性について、深いご議論をいただきました。

そして、更なる発展に向けて、礎となる計画をお示しいただきました。そのように認識しております。このことにつきましては、この12月に議会が始まります。そこで、この基本構想を議論していただきまして、決定していきたいと、このように思っております。

また、皆様方がここへみえる時に大変ご迷惑をかけております、市庁舎の増築を行っておりますが、これも今、順調に推移をしております。1月10日に本庁方式に移行するわけですが、職員に対して、その心構えといいますか、キャッチフレ

ーズの募集を呼びかけまして、「始まります 清須を支える 新拠点」、こういうキャッチフレーズを作りまして、成果として、より市民の皆様の利便性を高め、行政サービスの向上に努めようと、こういうことで今、色々な準備をしておるわけでございます。

先ほどは、最後の審議会ということで、色々な皆様方のご意見、ご要望をお聞かせいただきました。そういう中で、第2次総合計画では基本理念の中に「魅力」と「連携」を入れていただき、本当に良かったと思っております。皆様方お一人お一人のご意見、ご要望をお聞かせしていただいておりますと、やはりこれからは、いわゆる新しい時代といいますか、それはすなわち、少子高齢化がますます進んでいきますよということでございます。それから、今本当に頻繁に地震が起きたり、自然災害が起きております。更には、それらへの対応を行政として進めていくためには、財源が必要となってまいります。それには、やはり自助とか共助、公助、そういった自らの役割を果たしながら、行政としての役割を果たしていくということで、本当に「連携」ということは、先ほどご意見がありましたように、意識してまちづくりを進めて欲しいということでございましたが、本当にそのとおりでございまして、これで作っていただきました計画ですが、そういうことをきちんと意識して、進めてまいりたいと考えております。

これからも、色々な面で、皆様方のご助言をいただく機会があると思っておりますが、その時もよろしくお願いを申し上げます。

本当に長期間に渡りまして、皆様方には並々ならぬご尽力をいただきましたことにつきまして、心から感謝を申し上げます、一言ごあいさつとさせていただきます。どうもありがとうございました。

6 閉会

(事務局)

委員の皆様におかれましては、昨年9月から長期間に渡りまして、ご審議を賜りまして、誠にありがとうございます。

清須市第2次総合計画につきましては、この後、12月の市議会におきまして基本構想の議決を得て、12月末に策定を予定しております。

また、3月までに冊子を作成させていただきますので、ご承知置きの方、よろしくお願いしたいと思います。

それでは、以上をもちまして、清須市第2次総合計画審議会を終了させていただきます。

今後とも、市政運営にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。

問い合わせ先	企画部 企画政策課 電話 052-400-2911 (内線1224)
--------	---------------------------------------

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

署名委員 齋藤 雅美

署名委員 福西 未来